



東日本大震災 被災者支援 北海道民医連ニュース

2011.4.15



避難所（大船渡市赤崎漁村センター）にいる方々の思いを書きこんだ寄せ書き

毎日新聞全国版で紹介されました
道南勤医協の石山正子さん（訪看ST）

みんなで「ふるさと」大合唱

集団になじめずにいた T さんを中心にして、避難以来ずっとしきっぱなしだった布団を上げて、はじめて掃除をすることができました。空気を入れ替えてから、部屋に居た 10 数人で発声練習をした後に、みんなで「ふるさと」を歌いました。「歌いたかった。一人では歌えない」「何にもしないことが死ぬほど辛い」と言っていた方たちが、涙ながらに「ふるさと」歌い、そのあと嬉しいと 81 歳の A さん（女性）がでんぐり返りを 2 回やってくれました！

先週から取材に入っている毎日新聞記者が「この人たちの表情が先週と全然違います。どんよりしていた雰囲気が生き生きしてきた感じがします」と話してくれました。

大船渡チーム 加地尋美総師長（札幌病院）からの報告です

毎日新聞 2011年(平成23年)4月14日(木)

93年、津波で両親失った函館の看護師

93年の北海道西沖地震による津波で函館市に在住の函館生まれの看護師、石山正子さんが、大船渡市赤崎漁村センターで被災者支援活動中。被災地入りした石山さんは、被災者の心身のケアにあたっている。

石山さんは函館市出身で、函館市内の病院に勤めていた93年、津波が函館を襲った。父が脳出血で亡くなり、母が脳梗塞で倒れた。石山さんは、母を介護しながら、函館市立病院で看護師として働きながら、函館市立病院で被災者支援活動中。

大船渡で医療ボランティア

石山さんは函館市出身で、函館市内の病院に勤めていた93年、津波が函館を襲った。父が脳出血で亡くなり、母が脳梗塞で倒れた。石山さんは、母を介護しながら、函館市立病院で看護師として働きながら、函館市立病院で被災者支援活動中。

分かれ合える「悲しみ」

93年の北海道西沖地震による津波で函館市に在住の函館生まれの看護師、石山正子さんが、大船渡市赤崎漁村センターで被災者支援活動中。被災地入りした石山さんは、被災者の心身のケアにあたっている。